

(2021年3月)

ハイチ共和国・政治・経済・社会情勢月報

在ハイチ大使館

<要点>

【政治】

- ジュトゥ首相が辞表を提出したが、モイーズ大統領は受理せず（10日）。
- モイーズ大統領は、治安悪化に対処するために野党等すべてのセクターに対して休戦呼びかけ（12日）。
- ロシア報道官は、政治安定と治安維持のためハイチを支援する用意がある旨表明（同日）。
- ホワイト元駐ハイチ米大使が米議会下院外交委員会で、ハイチにおける年内の選挙実施を疑問視する発言（12日）。
- モイーズ大統領は、米州機構事務総長と国連事務総長に対して国家警察への技術支援を要請（15日、16日）。
- 米州機構常設理事会は、ハイチへの選挙監視団派遣を決議（17日）。

【経済】

- 経済学者ファレル氏は、政治危機が経済に深刻な悪影響を与えているとして、すべての関係者に対して対話を呼びかけ（31日）。

【社会】

- ヴィラージュ・ド・デュウ地区のギャング掃討作戦において国家警察がギャングに敗北する事態が生じ、警官4名が死亡、8名が負傷（12日）。
- ヴィラージュ・ド・デュウ、グラン・ラビン、デルマ地区とアルチボニト県のサヴィアン地区等に1カ月間の非常事態宣言が発動（16日）。
- 国家警察は、ファントム509を犯罪組織と認定。同グループ所属の警察官を罷免・逮捕する決定（23日）。

1 政治

- 10日 ジュトゥ首相は、閣議の場で辞表を提出したが、モイーズ大統領はこれを受理しなかった。ジュトゥ首相は、政府の一体性を促進又は改善するために役立つのであれば、いつでも辞任する用意があることを示したと首相府筋が明かした。大臣が首相の指示と逆の措置をとるようなら既に首相は政府の長とは言えないとして、ヴァンサン司法・公安大臣が首相の指示に従わないことが辞表提出の理由であることを同情報筋は示唆した。
- 12日 モイーズ大統領は、同日、劣悪な治安と闘うために野党政治家を含むすべてのセクターに対して休戦を呼びかけた。
- 12日 ロシア外務省報道官は、ハイチ情勢について、安保理常任理事国として多くの質問を受けているとしつつ、国連憲章の原則への変わらぬコミットメントに従い、ハイチ国民に対する必要な支援を、二

国間と国連ハイチ統合事務所（BINUH）を通じての双方で行いたい、ロシアは、ハイチの政治的安定と治安維持、要員の訓練、平和維持、及び人権保護を回復するためにハイチを支援するつもりであると述べた。

- 12日 オバマ政権時代の2012年から2015年の間に駐ハイチ米大使を務めたパメラ・ホワイト氏が米議会下院外交委員会のバイデン政権の対ハイチ外交への政策提言の中で、年内の選挙実施を疑問視する発言を行った。発言詳細は以下の通り。

○もしモイーズ大統領が政権に留まるのであれば、完全に透明かつ清廉で混とんとした問題から超越した立場をとらなければならず、政治家でも財閥でもない著名な人物を新しい首相を任命し、現在の暫定選挙管理委員を罷免し、合法的な選挙管理委員会を設置するために主要政治家による会合を開催しなければならない。治安を維持するのがモイーズ大統領の仕事であり、ギャングの暴力を止めなければならない。

○CEPは合法ではなくIDカードの配布の遅れも問題であり、年内の選挙実施は難しい。

○今回のような腐敗した選挙に国際社会が支援するのか疑問を呈し、現在のようなカオスの中で米政府が前回のように33百万ドルを拠出するとは考えられない。国際社会は、円滑な政権移行と治安の改善のための道筋を示し、政権に責任を負わせるべきである。

○自由で公正な選挙の実施でハイチが変革することは決してない。

- 14日 モイーズ大統領は、ヴィラージュ・ド・デュウでのギャング掃討作戦失敗による警察官の痛ましい死を悼んで、15日から3日間喪に服することを発表した。

- 15日 モイーズ大統領は、アルマグロ米州機構事務総長とオンラインで会談し、国家警察への技術的支援を要請した。

- 16日 モイーズ大統領は、グテレス国連事務総長とオンラインで会談し、国家警察への技術的な支援を要請した。

- 17日 米州機構常設理事会は、ハイチ情勢に関する理事会決議(CP/RES.1168(2315/21))を採択した。決議の主な内容以下のとおり。

- 1 年内の自由で公平な総選挙実施の必要性等について関係者との対話を行うよう大統領を奨励する。
- 2 ハイチにおけるすべての暴力と人権侵害に対して強い懸念を表明し、適正な法の手続に従って責任者を処罰するよう大統領を奨励する。
- 3 コロナ感染によって悪化したハイチの人道状況を想起する。
- 4 OASに選挙監視団の派遣と、選挙実施に向けた対話促進のための周旋を求める大統領の要請を歓迎する。
- 5 周旋の役割を担う常設理事会のオファーをハイチ政府及び関係者に通知するよう OAS 事務総長に要請する。

2 経済

- 31日 経済学者ファレル(Kesner PHAREL)氏は、政治危機が経済に深刻な悪影響を与えていることを指摘して、政治危機を作り出しているすべての関係者に対して対話を呼びかけた。

3 社会

- 3日 ドミニカ共和国とハイチを往復している公共交通機関のバスが何者かに狙撃され、10名が負傷する事件が起きた他、空港通りで道路封鎖と小規模デモが発生し、下町の大統領府前広場でバイクに乗

った男が無差別に歩行者に発砲して死傷者が出る事件があった。

- 12日 装甲車を使用した警察特殊部隊によるヴィラージュ・ド・デュウ(Village de Dieu)地区のギャング掃討作戦が失敗し、警官4名が犠牲となり、8名が負傷する結果となった。国家警察の装備が慢性的に不十分と言われる中で行われた作戦は、先遣隊の援軍要求に警察が応じられずに見殺しにする形で警察がギャングに敗北を喫する結果となった。装甲車は事前に掘られた穴に落ちて身動きが取れなくなったところを攻撃された。犠牲となった警官の遺体や装甲車が破壊され燃やされる映像がSNSで拡散し、ハイチ国民に大きな衝撃を与えた。デュヴァル・ヌベリスト紙編集長は、これは単に国家警察長官、国家警察高等評議会、及びモイーズ大統領の将来の問題に止まらず、ハイチという国の将来に関わる問題であると述べた。
- 16日 大統領令によって、首都ポルトープランスで、ギャングが支配するヴィラージュ・ド・デュウ、グラン・ラビン、デルマ2地区と、アルチボニト県のサヴィアン地区、及び今後、国家警察が特定する他の地区に1カ月間の非常事態宣言が発動された。これにより、同地区において、警察による介入措置、建物の封鎖や市民に対する退避命令、物資・宿舍の徴発、交通網・電話サービスの停止等が可能となる。
- 17日 警察官が国軍の兵士たちを伴い、待遇改善要求とモイーズ大統領への不満を訴えてデモを行った。ファントム509と急進派野党に支援された労働組合グループがデモを行い、デルマ33地区の警察署に押し入り、拘禁されていた警察官4名（1月に逮捕されたファントム509のメンバー）を解放する事件があった。また、同日、反モイーズ派政治家レジナルド・ブロス氏が経営する自動車販売所が暴徒によって放火され、販売用に展示されていた車が略奪される事件が発生した。
- 18日 ファントム509がクロワ・デ・ブケ刑務所に押し寄せて、服役していた受刑者1名を解放した。
- 22日 25日に行われる2022年カタールワールドカップ予選のために当地を訪れたベリーズ代表の乗るバスが空港からホテルに向かう途中で武装グループに襲われる事件が発生した。負傷者はなかった。
- 23日 国家警察は、ファントム509を犯罪組織と認定し、同グループに所属する警察官を罷免し、逮捕等に踏み切る決定をした。
- 27日 ヴァンサン司法公安大臣は、ファントム509のメンバーとみられる13名を殺人・テロ行為等の理由で指名手配した。同日、国家警察労働組合元スポークスマンの Abeison Gros NEGRES と Raphael JEAN の2名が逮捕された。
- 28日 29日の現行憲法採択記念日を迎えるにあたり、モイーズ大統領の辞任と憲法遵守を要求し、治安悪化に抗議するデモの動員が首都ポルトープランスで呼びかけられたが、小規模なものに留まった。